

当たり前を問い直す

女性協拡大常任委員会

7月20日、各地連および本部から一〇名が参加し、女性協拡大常任委員会を開催した。各地連から2026春闘の状況について報告があり、ベースアップ、人手不足への対応、女性社員採用や役員登用などについて意見交換を行った。



ジェンダー、労働など幅広い内容だった

のメンバーでアーティストの和田彩花さんを講師に迎え、「『当たり前』を問い直す―アイドル、ジェンダー、表現の現場から」をテーマに学習会を行った。

和田さんは、自身のアイドル時代を振り返り、メンバー同士の関係や仲間との出会いは大きな財産だった一方、運営体制には多くの課題があったと語った。プライベートや自分自身と向き合う時間、教育を受ける機会、卒業後のキャリアを考える余裕がなく、契約内容を十分理解しないまま仕事をしているメンバーも多かったという。また、「いつも笑顔で機嫌よくいることが求められる環境の中で、他者からの評価を気にするあまり、自分で考え判断する力を失っていくことの苦しさ」を語った。さらに、

水着撮影や衣装、性的なイメージを求められることなど、自身の経験を通して、アイドル文化に根付く男性中心の価値観やジェンダーの問題を指摘。大学でフェミニズムを学んだことで、それまで感じていた違和感を言葉にできるようになったと話した。

アイドル卒業後はアーティストとして活動し、現在はフェミニズムや女性の生

き方、家族などをテーマに歌詞にも取り組んでいると語った。また、契約書の不備、最低賃金を下回る報酬、未払い賃金、長時間労働など、芸能業界に存在する労働問題にも触れた。

今回の講演を通じ、ジェンダーだけでなく、労働、教育、契約、自己決定権など、誰もが安心して働き、自分らしく生きるために必要な課題について考える機会

となった。芸能界に限らず、あらゆる職場で対等な関係性と適切な労働環境を整えることの重要性を改めて確認する学習会となった。

